

ICT活用による地域農業生産基盤の確立 (網走農業改良普及センター美幌支所)

背景

【津別町の概要】

- 1戸当たり経営面積は34.4haで、5年後には44.1haに増えることが予想されている
- 農家戸数減少、高齢化による労働力不足に対応するため、コントラクターやTMRセンターの整備が進んでいる

【地域の課題】

- ICT機器を導入する農家が増えており、それらを活用した品質向上、省力化、生産基盤の拡充に向けた取組が必要
- 地域内では「スマート農業加速化事業プロジェクト(国費事業)」による取組も実施中であり、更なるICT機器の導入活用が求められている

普及活動内容

- 導入したICT機器の有効活用を目指し、「自動操舵講習会」を実施した
- 講習会内容を対象農家の意見を基にマニュアル化し、ICT機器の更なる活用促進を図った



自動操舵講習会



内容をマニュアル化!

- 秋まき小麦の、は種作業時の作業効率調査を行い、自動操舵システムの効果を検証した



秋まき小麦のは種作業効率化調査

普及の成果

【具体的な成果】

- 自動操舵による作業の効率化を確認できた
- 講習会実施とマニュアル作成により、次年度以降の作業円滑化や、実践的使用法の地域への波及が期待できる

小麦は種作業における作業効率化調査(作業幅の差)

農家名	測定作業幅(m)		理論作業幅(m)	評価
	自動操舵	手動操舵		
A	17.83 (-0.17)	17.51 (-0.49)	18.00	重複作業の削減と作業精度向上
B	14.90 (0.08)	15.24 (0.42)	14.82	隙間を減らし、作業精度向上により、時間当たりは種面積が向上

※理論作業幅と差が少ない方が効率が良いと判断

【成果のポイント】

- 活動の早期に「自動操舵講習会」を開催したことで、ICTの基礎知識を学ぶことができた
- 作業効率を数値で提示したことにより、導入効果をより深く理解することができた